



在京古高同窓会会報  
第47号

〒352-0031  
新座市西堀2-17-37  
在京古高同窓会事務局  
FAX (042) 494-1598  
URL <http://www1.ttcn.ne.jp/~furuo>  
Email [skyoji@jcom.home.ne.jp](mailto:skyoji@jcom.home.ne.jp)

発行責任: 曾根 研一  
編集長: 亀井 明  
印刷: (株)ケーヨー

在京同窓会メモ

- ・会計年度は4-3月、年会費は一口2,000円です。
- ・会の健全運営のため、振替用紙が同封された方には、納入をお願い致します。
- ・次回会報第48号は2012年1月1日発行予定、原稿は常時受付。

### 東日本大震災により被災された皆様並びに 関係者の皆様にお見舞い申し上げます

会長 高橋 俊裕



の行動が果たして海外のレポーター通りかどうか考えさせられることも多々ありました。王子1個を5人で分かちあいながら耐え忍んでいる人達がいるかと思えば、己れの為のみ買占めに狂奔する人々がいます。

とんでもない事が起こりました。会員の皆様との関係者の方々は無事でしたか。この度の東日本大震災の被災者の皆様にお見舞い申し上げますとともに、犠牲者の方々に心よりお悔み申し上げます。

日本人の美德とは本当は何だろとかと考えると、日本はまだ捨てたものではないと思つたことでした。

私は、この大震災ニュースをマカオで知りました。東京での激しい揺れを経験することは出来ませんでした。3月13日に帰国するまで、CNNをはじめ、海外のテレビでも津波一色の報道でありましたが、整然とした避難行動や、我慢強さを賞讃するコメントが圧倒的で、必ずや日本はこの国難を克服して立派に復興を果たすに違いないと報道しておりました。

さて、5月1日から2泊3日で郷里を訪れました。災害の応急措置がほどこされていることもあり、一見して地震の被害を探すが難しかったのですが、よく見れば道路は波打ち、マンホールは持ち上がり、寺の本堂は破壊され、マンションは1m近くも沈下してしましました。瓦屋根や土壁の崩落も多く、あらためて今回の地震の凄さがしのばれます。

渡波にも寄りました。もはや原風景が全く残されていない中で、自衛隊などの人々が瓦礫の整理に追われていました。もしあの地震が、津波が真夜中に起きていたらと思うと空恐ろしくなりました。

大崎市役所の災害対策本部にも寄り、伊藤市長ともお話しすることが出来ました。市としては震災復興計画を策定し、これから復興推進を図ることですが、市長は「単に復元するということとはしたくない。新しい街づくり、大崎市の位置づけ、東北の中で、宮城県の中で、産業政策のあり方など、抜本的に見直して行きたい」と大変心強い発言でした。

さて、本会に於いても母校への義援金の募金を皆様にお願しておりますが、5月9日現在186名の方から総額119万円と多額の義援金をお寄せいただきました。募金活動は9月末日まで行いますが、来る6月25日の本総会に於いて、その時までの義援金を古川高校校長へお渡ししたいと考えております。ご協力ありがとうございます。これからもよろしくお願いたします。

最後になりましたが、ふる里の復興を信じつつ、同窓生皆様のご健勝を心からお祈りしご挨拶にさせていただきます。

### ご挨拶

古川高等学校長 鈴木 悟



在京同窓会の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。この度の異動により、佐々城洋校長先生の後任として着任いたしました。県北第一の伝統校であり、躍進を続ける古高勤務となり、職責の重さを痛感しております。微力ながら精一杯努める所存です。よろしくお願ひ申し上げます。

今、私たちは、3月11日の大地震、そして大津波に始まる東日本大震災からの復興の途上にあります。今回の震災のため在京古高同窓会より母校への支援のお申し出をいただきまして、誠にありがとうございます。

本校は、大震災当初、地域の方の避難所となり、教職員も支援しました。生徒も、被害の大きな沿岸部や住んでいる地域、そして校内などで様々なボランティアに参加し、多くのことを学びました。

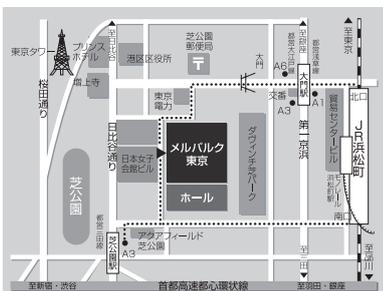
現在は、生徒会が中心となりジャージとシューズを集め、石巻地区の高校に送ろうと動き出しました。他人の痛みを自分の痛みとしてとらえ、今、古高生は地域の皆さんと一緒にボランティアなどに積極的に取り組んでおります。さて、今年の卒業生ですが、国

公立大学合格者が92名を数え、過去最高の実績を残してくれました。また、今年は241名の新入生が加わり、716名で「チーム古高」をスタートしました。今は5月20日に行われる伝統の築館高校との定期戦に向けて応援練習、部活動に汗を流しています。これからも勉強と部活動の両立に加え、地域貢献、ボランティアで心を磨く古高生のため、教職員一丸となって全力を傾注する所存です。

今後とも変わらぬご支援をお願いいたしますとともに、在京同窓会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝をお祈り申し上げます、ご挨拶といたします。

### 平成23年度 在京古高同窓会定時総会・懇親会

【日 時】平成23年6月25日(土)  
11:30~15:00  
【会 場】メルパルク東京 (右図参照)  
【会 費】8,000円  
【講 演】伊藤康志 大崎市長  
演題「大崎市震災状況とその後の復興について」  
【交通案内】  
JR・モノレール「浜松町駅」北口 徒歩8分  
都営地下鉄三田線「芝公園駅」A3出口 徒歩2分  
都営地下鉄浅草線・大江戸線「大門駅」  
A3・A6出口 徒歩4分



メルパルク東京 〒105-8582 東京都港区芝公園2-5-20  
TEL 03-3433-7211

お知らせ

# がんばろう！蛭雪健児

古川高校同窓会  
会長 渡邊 義之



3月11日の東日本大震災から早いもので2ヶ月が経過いたしました。在京同窓会の皆様方がお過ごしでしょうか。

まずはこの度の震災と津波で被災された方々に心から御見舞い申し上げます。この震災は東北のみならず茨城・千葉などの関東地域にも大きな被害を与えました。私も新人校長として20年前に赴任した南三陸の志津川高校に過日訪問してきましたが、高台の高校から見ると状況は言葉で表すことのできない惨状であり、当時お世話になった多くの方々も亡くなった。未だ行方不明だったり、大変大きな衝撃を受けました。

ところであります。次に同窓会の近況ですが、今年が発足101年目になりますので、この大震災に負けずに、がんばろう！蛭雪健児をスローガンに、同窓会諸氏の更なる絆を強めるべく全力を傾注して母校の発展と同窓会の進展の為に努めてまいりる所存であります。在京の皆様には今年もご指導ご支援を賜るようお願いいたします。

母校の状況ですが、今年の国立立大学進学は昨年比12名増の92名となり、確実に躍進している様子が見られます。またこの春の人事異動で佐々城校長が宮城第一高校(旧宮城第一女子高)学校長に栄進し、後任に田尻さくら高校から鈴木悟校長が赴任してまいりました。新校長はさわめて活発に校務運営をされる方で、同窓会としても前任校長同様大きな期待を寄せているところでもあります。結びに皆様のご健勝を祈念致します。(昭34年卒)

## 近況報告

事務局長 大山 義男



在京同窓会会員の皆様、この度は東日本大震災に際しまして、在京同窓会より母校被災のご心配とお心遣いを頂き、誠にありがとうございます。また、早速「母校古高および被災古高生に義援金」

窓口を設立、母校へのご支援の申し出を頂きましたこと、在校職員といたしましても感謝申し上げます。古高の生徒の中にも、震災の影響で自宅が倒壊した生徒、福島第一原発の影響でやむなく転校して来た生徒もおります。そうした生徒達を古高後輩として暖かく支援して参りたいと思っております。何卒よろしく御願ひ申し上げます。また、去る3月1日行われました卒業式では、在京同窓会副会長大友正行様にご臨席賜り、東京蛭雪賞授与と祝辞を頂きましたことに御礼申し上げます。

さて、震災の影響を受け、例年より2週間遅く学校が始まりました。その間、古川高校も地域の避難所として役割を果たしたり、在校生達も各地でボランティア作業に従事したりと、各方面で古高生の活躍が見られました。特に4月21日の入学式に向けて、新入生を気持ちよく迎え入れられるようにと校舎清掃に汗を流してくれたことには感謝しています。こうした在校生の活動こそが、古高魂として息づいている姿なのかと思えます。

入学式では241名(内女子114名)の新入生を迎えることが出来ました。中止を心配されていた築館高校との定期戦は、種目縮小の上、5月20日に開催できることになり、恒例の応援練習が今後始まります。こうして校歌、応援歌、エールと伝統が受け継がれていくことに喜びを感じます。一昨年から連勝に引き続き、今年の3連勝も間違いないと確信しております。次に今年の卒業生の進路状況に

ついてご報告申し上げます。今年3月の卒業生はその実力を遺憾なく発揮してくれました。進学校の指針の一つとして見られる国公立への現役合格者数も、一昨年の72名、昨年の80名を遙かに超え、92名の進学を果たしました。この数字によって県北随一の進学校としての地位を揺るぎないものにしたと確信しております。今後ますますの躍進と期待を込め、進路指導により一層の力を注いで参りたいと思っております。詳しくは別紙進路一覧表をご覧ください。



入学式宣誓



入学式での校歌披露

また部活動でも、昨年はスキー部(クロスカントリー)の阿部駿佑君が目覚ましい活躍をし、インターハイ、国体、高校選抜大会の出場を果たしております。他にも、個人ではありますが、ボーリング国体少年女子団体で第7位に入賞した遠藤明日香さんを始め、陸上部の東北大会出場など各種目で好成績を残してくれました。

最後に本年度の本部同窓会総会ですが、本年度は8月6日(土)に大崎市古川の「芙蓉閣」で開催いたします。本年度は記念公演としまして卒業生音楽家とピアノ伴奏者を含めた4名による演奏会を予定しております。出演者は、相澤政宏(昭62卒・東京交響楽団フルート奏者)様、成田博之(昭62卒・声楽家)様、大和田雅洋(平元卒・サクソフォン奏者)様、野間晴美(昭63古女卒・ピアノ奏者)様を予定しておりますので、どうぞ奮ってご参加ください。

また、本年度当番幹事は高17、高22、高27、高32、高37、高42回生になります。是非本部同窓会を利用し、同期会の場としてお集まり頂けますよう重ねて御願ひ申し上げます。(昭56年卒)

### 新校長 鈴木 悟 略歴

登米市中田町出身。佐沼高校から山形大学人文学部卒。築館高校、志津川高校、岩ヶ崎高校に勤務。県生涯学習課派遣社会教育主事(田尻町派遣)を経て、田尻高校で教頭。県高校教育課生徒指導班長、田尻高校・田尻さくら高校校長を歴任後、平成23年4月より本校校長。大崎市古川在住。

# 東京堂雪賞

去る3月1日に行われた卒業式には大友副会長が出席し、生徒会・クラブ活動等、生活全般にわたり功績のあった生徒会長の成澤翔君（サッカー部・田尻中出身）と、応援団長の佐々木政胤君（ハンドボール部・中新田中出身）に東京堂雪賞が授与されました。写真。



## 生徒会長の責務

成澤 翔

この度は東京堂雪賞という素晴らしい賞をいただき、本当にありがとうございます。ありがとうございました。

卒業を迎えてこの3年間を振り返ってみますと、本当に充実した日々であったと思います。質実剛健、学問尊重、自主自立を掲げる古川高校に入学し、堂雪健児たる精神を培うことができました。その中で生徒会長であったことが一番の心の支えであります。会長就任当初は、会長として恥

じぬようにふるまうことで精一杯で、自分らしさを思うように出せませんでした。しかしそれで古高の会長が務まるのか、という葛藤もあり、私は自分らしさを前に出そうと決心しました。

私は生徒のために古高を良い方向へ導く、それが会長の果たすべき責務だと考えます。私はその責務を果たすべくがむしゃらに努力をしました。その努力をした経験が今の自分の精神的な成長の糧になったのだと思います。

私はこの度頂きました東京堂雪賞に恥じぬように、また古高で学んだことに恥じぬように、これからの人生を精進していきたいと思えます。本当にありがとうございます。

## 然るべき応援団長

佐々木政胤

この度は、東京堂雪賞という大変由緒ある素晴らしい賞を頂くことができ、古川高校同窓会の皆様にご感謝申し上げますと同時に、心から嬉しく思います。

晴れて古川高校を卒業し、改めてこの3年間を振り返ってみると、毎日が新鮮で、とても充実したものであったと思います。伝統ある校舎、素晴らしい先生方、そして良き友に出会い、互いに切磋琢磨して同じ時を過ごせた事を、私は誇りに思います。

この3年間の中でも特に力を注ぎ、また自分自身を成長させてくれたのは、応援団長としての活動です。就任当初、私は先代の応援団長のように威厳があり、畏怖の念を抱かせるような風格を漂わせ

ることができたか不安でした。しかし、他の団員や先生方の支えや励ましを受け、一歩ずつ自分の思い描いた理想の応援団長に近づくことができました。

応援団長として時には重圧に噴まれ、挫けそうになったこともありましたが、目標を見失わず、仲間と支え合いながら自らの務めを全うすることができました。この誰しもができない貴重な経験の中で、応援団長としてだけではなく、私自身一人の人間として成長することができました。

また、この応援団長としての経験は、これからの人生において、更なる高見に近づくためのかけがえのない財産となるはずで、古川高校の応援団長を務めることができたことを、心から感謝したいと思います。

この度頂いた「東京堂雪賞」に恥じることはないよう、日々精進していきたいと思えます。本当にありがとうございます。



卒業式

### 平成23年度進路状況 (現役のみ)

#### 国立大 75名

大学	学部	男	女	計
北海道教育 弘前	教育	1	1	2
	人文	1	2	3
	教育		1	1
	理工	1	1	2
	計	2	3	5
岩手	教育	1	1	2
	工	11	1	12
東北	計	12	1	13
	教育	1	1	2
	経済	2	1	3
	医	1	1	2
	工	2	2	4
計	4	2	6	

大学	学部	男	女	計
秋田	医、工学資源	2	1	3
	福祉	3	3	6
	宮城教育大	3	3	6
山形	中等教育教員養成	4	4	8
	計	7	7	14
	人文	3	3	6
	理	1	1	2
	医(看護)	1	1	2
福島	工	7	7	14
	農	2	2	4
	計	11	3	14
福島	人文社会	5	5	10
	理工	1	1	2
	計	6	5	11

大学	学部	男	女	計
宇都宮	教育	1	1	2
	工	1	1	2
群馬	社会情報	1	1	2
	経済	1	1	2
	教養	1	1	2
千葉	文	1	1	2
	理	1	1	2
新潟	医(看護)	1	1	2
	人間社会	1	1	2
	理	2	2	4
新金	織維	2	2	4
	農	1	1	2
高知	計	54	21	75

#### 公立大 17名

大学	学部	男	女	計
岩手県立	工	1	1	2
	計	1	1	2
秋田県立	文	1	1	2
	宮城	1	2	3
	計	1	1	2
	計	1	2	3
山形保険医療大	会津	1	1	2
	立教	1	1	2
群馬県立女子大	立教	1	1	2
	埼玉県立大	2	2	4
合計		6	11	17

#### 私立大 271名

大学	学部	男	女	計
酪農学園	農食環境	1	1	2
	薬	3	3	6
岩手医科	文	1	1	2
	盛岡	5	8	13
東北学院	経済・経営	34	15	49
	法	8	8	16
	工	26	3	29
	教養	9	6	15
	工	4	2	6
東北工業	ライフデザイン	1	1	2
	総合福祉	3	6	9
	健康科学	2	4	6
	子ども科学	1	11	12
東北薬科	薬	1	5	6
	宮城学院女子	26	26	52
仙台白百合女子	人間	2	2	4
	体育	1	1	2

大学	学部	男	女	計
石巻専修	経営	3	3	6
	理工	2	1	3
尚綱学院	総合人間	1	4	5
	東北文化学園	4	4	8
東北生活文化	家政	2	2	4
	秋田看護福祉	1	1	2
東北芸術工科	デザイン工	2	2	4
	芸術	1	1	2
東北公益文庫	公益	1	1	2
	いわき明星	1	1	2
奥羽	薬	1	1	2
	足利工	1	1	2
獨協	外国語	1	1	2
	神田外語	4	4	8
麗澤	外国語	1	1	2
	青山学院	1	1	2
鹿島学院	国際政経	1	1	2
	経済	1	1	2
亜細亜	法	1	1	2

大学	学部	男	女	計
大妻女子	社会情報	3	3	6
	北里	1	1	2
駒澤	文	1	1	2
	仏教	6	6	12
実践女子	法	1	1	2
	文	1	1	2
芝浦工業	システム理工	1	1	2
	昭和女子	1	1	2
専修	経済	1	1	2
	玉川	1	1	2
東海	文	1	1	2
	工	1	1	2
	生物理工	1	1	2
	東京工芸	2	2	4
東京農業	芸術	2	2	4
	国際食料情報	1	1	2
東京理科	応用生物科学	1	1	2
	理工	1	1	2
日本女子	法	1	1	2

大学	学部	男	女	計
日本	工	1	1	2
	生物資源	1	1	2
文化女子	服装	1	1	2
	明治	2	1	3
立教	現代心理	1	1	2
	経済	1	1	2
学習院女子	国際文化	1	1	2
	神奈川	1	1	2
	経済	2	2	4
	人間科学	1	1	2
相模女子	学芸	1	1	2
	桐蔭横浜	1	1	2
フェリス女	音楽	1	1	2
	横浜美	1	1	2
鈴鹿医療科学	美術	1	1	2
	同志社	1	1	2
	経済	1	1	2
	合計	129	142	271

第十八回 旧古川市内四校新年の集い

元NHKプロデューサー 佐々木欽三氏の「時代を語る」で、テレビ創成期の逸話を楽しむ

恒例の第18回四校関東同窓会「新年の集い」が、古川学園高校の幹事で、1月29日(土)、上野精養軒で盛大かつ和やかに開催されました。全体出席者は245名(来賓を含む)、本会員は昨年より若干増加し86名でした。

第I部は古川学園(浅野氏)・古川工業(高橋氏)の司会で11時に開会。まず四校を代表して古川学園の村田関東支部長が挨拶し、18回の歴史を刻むことができた諸先輩への感謝と若い世代の積極的参加の必要性を訴えた。

引き続き、各校長がそれぞれの近況を交えて挨拶を行った。まず本学(創立133年)、佐々木校長は男女共学がスタートして6年を経過したが順調に成果を挙げていること、質実剛健、学問尊重、自主自立の校訓を掲げてリーダーシップを取れる人材育成に注力しており、最近の寒さ(最低気温がマイナス12.5度に達した日も)にも負けず、勉学・クラブ活動に生徒一同取り組んでいると紹介。古川黎明(創立90年、佐々木校長)は男女共学・中高共学6年目を迎え、今春の進学実績に期待していること、また古女高以来の伝統を受け継ぎながら、新しい教育のハイオニア校として頑張っていることと報告。古川工業(創立76年、森校長)は、

経済不況にも関わらず、就職内定はほぼ100%、定時制も50周年を迎えたことを紹介。

古川学園(創立56年、佐藤常務理事、大河原校長)は、三冠を逸したものの春高バレー(女子)で4年連続準優勝したことを報告し、また平成15年の学科改組に伴う校名変更について改めて紹介。

次に各校の本部同窓会会長、役員挨拶。渡辺本学同窓会長は、「新年の集い」は大崎という心の故郷を共有する貴重な機会、「結い」の精神が盛会を続ける理由と感じられるので、一層の連帯を4校で図って行きたい旨、挨拶を行った。

更に、古川黎明の千葉会長、古川工業の早坂会計委員長、そして古川学園の晴山会長より郷里・母校の様子を交えて挨拶があった。

来賓紹介では伊藤大崎市長が挨拶。まず、物心両面の支援に感謝。具体例として昨年の「ふるさと納税」が400万円以上あったこと、首都圏でのイベントへの参加・激励を受けたことを挙げた。

また「たからの国、大崎」のスローガンの一環として「三志米」を紹介。次に最近の大崎市の活動を報告。合併5年目を迎え11月3日に記念イベントを企画、また市の象徴として市の花、木、鳥そして歌を募集予定。セントラル自動車操業に併せ、「未来産業創造大崎」とい

う産業推進機構、また大崎市への移住を働きかける「移住センター」を設けた。

更に東北新幹線の青森伸張を機に、大崎観光を提案する体制を考慮していることを述べ、大崎市に対する一層の支援を要望して挨拶を終えた。



来賓代表挨拶の伊藤大崎市長



講演の佐々木欽三氏

りの工夫(「マイク・リレー」、「希望インタビュー」など)、著名人(志賀直哉やスカルノ大統領)への取材や出演交渉時の秘話など、テレビ創成期の息吹を感じる興味深い話であった。

最後に「荒削りのドキュメンタリーの精神」の視点(物事の本質を見る目という意味)の重要性を指摘して話を締めくくった。

第II部は予定より10分ほど遅れて13時10分に開催。古高(亀井氏)と古川黎明白川氏が司会を務めた。

まず、四校関東同窓会を代表して、古川工業の草刈関東同窓会会長が挨拶、古川黎明の萩原関東支部長が乾杯の音頭をとった。その後、懇親会がスタート、和やかな雰囲気、盛り沢山の料理とアルコールでお互いの交流を深めた。

本学、上野氏や古川黎明の民謡歌手、渡辺さんの歌など各校有志の余興、大崎市の観光交流課の松ヶ根課長(古高S51卒)の三志米の抽選があり、会場を盛り上げていた。

15時過ぎ、次回幹事の本学、高橋在京古高同窓会長より閉会の挨拶、春田副会長の関東一本締めがあり、四つ葉の仲間たちのメロディが流れる中、再会を約して散会した。次回は1月28日(土)、同じ上野精養軒で開催の予定。

この度の大震災では、ふるさとに甚大な被害をもたらしましたが、四校の幹事会において、「新年の集い」の剰余金全額を義援金として大崎市に送りました。被災された方たちに少しでも早く笑顔が戻るよう、祈ってやみません。(昭46卒 笠間邦彦)

＜第18回四校合同新年会 古高出席者名簿＞

- 〔四校来賓〕 (敬称略) 伊藤 康志 (大崎市長) 松ヶ根典雄 (大崎市役所) 佐々木欽三 (首都圏大崎連絡協議会会長) 伊藤 長市 (東京古川会会長)
〔古高来賓〕 (敬称略) 佐々木 洋 (学校長 仙台市出身) 渡邊 義之 (同窓会会長 S34卒 東大崎出身) 高橋 亨 (同窓会副会長 S23卒 古川出身) 長井 弘策 (同窓会副会長 S31卒 古川出身)
〔会員86名〕 (カッコ内は出身地)
昭18 加藤 茂(古川) 昭27 中森 高(岩出山) 昭30 門脇喜代志(東大崎) 昭33 寺澤社一郎(三本木) 昭39 石堂 上野 達夫(古川)
昭20 安部善次郎(古川) 昭28 中川 早坂 道雄(鹿島台) 昭31 相澤 清(小野田) 昭35 岩崎 俊次(古川) 昭40 工藤 隆夫(岩出山)
昭22 前田浩五朗(古川) 昭29 金原 菊地 務(古川) 昭32 佐藤 順悦(不動堂) 昭37 菅野 兎王 孝夫(荒川) 昭41 菊地 高橋 宮本 八木 佐々木
昭24 松本 健(東大崎) 昭26 角田 啓輔(古川) 昭28 早坂 相原 尾崎 光彦(田尻)
昭25 谷地 森 祝(古川) 昭27 氏家 佐藤 清勝(中新田)

平成22年度会費納入状況一覧(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

- ・ 同窓会活動の財源としての会費を、皆さまにご協力いただきありがとうございました。
- ・ 平成22年度の年会費を納入された方々のご芳名を記して、お礼に替えさせていただきます。

卒年	氏名
昭7	杉下 刃兵衛
昭14	岩城 有信 佐藤 裕郎 中澤 廣
昭16	今野 栄喜 高橋 三郎 福島 光男
昭17	笹原 猛 宍戸 衛
昭18	加藤 茂 豊嶋 耘三 渡辺 三男
昭19	青沼 康男
昭20	青沼 瑞夫 安倍善次郎 荒木 和郎 熊谷 虎夫 後藤 雅久 高橋 昭典 日野 次朗 前田浩五朗
昭22	大曾根良衛 大場 孝夫 鈴木 昌男 松本 慶造 諸岡 久男
昭23	佐藤 浩朗 鈴木 大吉 半田 慶男
昭24	我孫子静夫 門脇 健 齋藤 馨 齋藤 弘 早坂 揆男 三浦 敬三 三浦 澄能
昭25	荒井 隆 岸 勝也 工藤英三郎 鈴木一太郎 袖井林二郎 遠山 仁一
昭26	相沢 清記 生亀 弘 柏倉 亮夫 遠藤 惇 岡本 昭 佐々木 惇 鈴木 桂吾 鈴木 俊男 角田 啓輔 平 博明 谷地 森 税
昭27	天野 仁二 石川 久夫 岩渕 弘 氏家 明朗 遠藤 安郎 大内 健 大内 史彦 太田 徹 大場 恒明 齊藤林寿郎 佐藤 清勝 菅井 一 菅原 峯雄 瀬川 博義 田口 朝一 中森 高 春田 紘輔
昭28	岡本 典憲 小元 広悦 加藤 源治 金子 康 中川 裕雄 早坂 明久 山田 四郎 渡邊 道雄
昭29	相沢 善徳 岩渕 瑞穂 大沼 悟 近江 誠一 金原 章郎 金村 繁 菊地 務 小堺 義一 佐藤 興市 佐藤 茂 佐藤 廣 関 信良 関口 克己 瀬戸 光 高橋 清亮 高橋 滉 高橋 勇悦 豊田 哲夫
昭30	長浦 稠 早坂 清吉 福富 啓祐 三浦 憲一 峯村 芳彦 八尋 恭平 湯本 良師 相原 相 浅野 和夫 尾崎 光彦 門脇喜代志 門脇 敏明 岸 孝仙 岸 康男 木村 哲彌 京極 恒由 小松 伍郎 児玉 律実 佐々木英三 佐々木 豊 佐藤 忠良 佐藤 輝久 菅原 利吉 鈴木 貞清 諏訪 政志 瀬戸 順悦 曾根 研一 高橋 敏昭 高橋 廣 塚田 容三 都築 侖 中澤 丙吾 中村 惇 二階堂幸男 平野 武 三塚 正志 師山 政夫 山中 廣志 横山 武 渡辺 吉郎 和田 勝義
昭31	相澤 昭男 浅野 清 浅野 平男 浅野 森男 阿部 進 生亀 功 石川 勝夫 伊藤 公男 大内 一正 奥村 信良 木村 智明 熊谷 正俊 今野 仁 佐々木 寛 田中 稔夫 長井 弘策 福原 克彦 松谷 嘉男 森 茂樹 森谷 文彦
昭32	相澤 菊男 相澤 賢郎 相沢 成憲 遠藤 康光 大久保 通 大森 英樹 木戸 秀彦 紺野 栄司 今野 順隆 佐々木勝也 佐藤 満行 下屋 勝 竹谷 靖夫 長沼 三郎 沼倉 和雄 野田 利美 原 清三 門間 俊二
昭33	大友 正行 大山 隆志 小堺 勉 今野 聡 齋藤龍次郎 佐々木光一路 佐藤 厚 菅原 富男 鈴木 邦夫 鈴木 節夫 鈴木 将夫 高橋 俊裕 寺澤壮一郎 成田 良元 野村 高義 早坂 英郎 福原 喬夫 藤本 幸昭 三浦 義明 森谷 拓夫 結城 睦夫 渡邊 紘也
昭34	青沼 行雄 片平 光昭 宍戸 志智 瀧谷 攻 村上 金吾
昭35	石田 靖夫 伊藤 勝利 岩崎 光任 宇佐美 潔 内田 将夫 梅沢 和男 大澤 邦敏 大沼 直紀 北村 忠則 黒岩 弘一 今野 正弘 佐々木恭二 佐々木武磨 佐々木庸二 鈴木 喜昭 中鉢 育玄 細谷 俊夫 我妻 一美
昭36	江崎 肇 大曾根秀憲 大益 弘 小笠原 信 片倉 康 菅野 俊次 児玉 隆行 齊藤 武夫 佐藤 宗博 菅泉 徹 高橋 幸裕 長井 清 柘澤 敬 吉田 二郎
昭37	相澤 利重 中鉢 泰平 千坂 孝夫 本田美喜夫
昭38	阿部 重人 大曾根 昇 大場 和男 木村 康之 今野 丈夫 佐々木恭次 佐藤 勝昭 残間 忠夫 菅原 靖彦 高橋 勝也 高橋 忠世 宮本 信夫 渡辺 将郎
昭39	石堂 達夫 上野 正司 後藤 雍正 渋谷 栄男 笹原 誠一 菅原 静 細野 利行 渡辺 則夫
昭40	工藤 邦保 佐藤 啓三 武田 俊夫
昭41	遠藤 賢 菅野 静義 菊地 務 今野 忠雄 佐々木宗實 鈴木 宏一 高橋 秀之 藤吉 和史 宮本 力 八木 正志 渡辺 幸之
昭42	遠藤 隆一 木村 智則 佐々木昭美
昭43	佐々木 博
昭44	木村 久一
昭45	荒川 忠一 猪俣 謙二 小畑 伸一 佐々木 質 佐々木裕祥 佐藤 実
昭46	笠間 邦彦 加藤 伸 鈴木 久一 森谷 隆
昭47	相澤 司 工藤 春彦
昭48	大場 康也 貝 修二
昭50	早坂 明彦
昭51	斎藤 信也 早坂 時男 細川 源治 道家 篤夫
昭52	平野 幸三
昭53	浅野 正則 高橋 昭彦
昭54	村井 勇二
昭55	亀井 明 佐々木三男 鈴木 健之
昭62	相澤 政宏 成田 博之



古き文化に帰るべきか

昭35年卒 佐々木恭二

この度の大地震・津波・原発事故、驚きと恐怖です。3・11以来、2ヶ月半が過ぎようとしています。まだ被害の全容がわからない状況です。

わが郷土も沿岸部の津波による惨状でしたが、内陸部の地震によるライプラインの欠落等も大打撃と伺っています。遅ればせながら亡くなられた方々のお悔やみ、災害の遭われた方々へ深甚なお見舞いを申し上げます。一日も早い復興、復興を願います。

私の実家(美里町北浦)とは、しばらくの間電話も不通で安否確認ができませんでしたが、向こうからの電話で元氣確認だけはできました。しかし、親戚・知人等での家の全壊、行方不明の家族がいるようですが、その実態すら不明です。

さらに、いわきに娘・孫が住んでおり、原発事故も心配でなりません。たまたま、地震の前日、家族でデイズニールランドへ行くべく来浜、当日デイズニールランド内で地震に遭遇しました。浦安の液状化現象も経験しました。そのまま、娘と孫は横浜へ1ヶ月間疎開しておりましたが、放射線被害が心配でしたが、孫の幼稚園が始まるというので、帰って行きました。

危険区域の設定が広がっていますし、収束がいつになるのかわからない状況が気になっています。間接的な当事者でありながら、何をやる術もなく、何も手付かずで、新聞やテレビ報道を見るばかり

です。どなたかがおっしゃっていました。これが「文明災害」だと。先日来、T P P (環太平洋経済連携協定)の議論で「第三の開国」が言われておりましたが、この東日本大災害の遭遇は日本の「第三の復興」の機会ではないでしょうか。

そもそも、戦後の日本の復興の礎になったのは、東日本からの「金の卵」の上京、東日本からの第一次産業(食)の供給、東日本からの電源供給でした。日本政府がバブル崩壊の際に銀行を国有化したよ

うに、負を背負った漁業や農地の有期的国有化を進めるべきです。思い切った脱原発を進めるべきです。政府・経済界・東京の懺悔的貢献こそが「日本の復興」につながります。石原慎太郎東京都知事がいみじくもおっしゃってくれました。「東京が東日本のために尽くさずではいかぬ」と。「がんばれ日本!」

今回の未曾有の地震・津波・原発の事故、本当に驚きました。連日報道されるTVで見える被災地の様子に、涙が止まりませんでした。2ヶ月が過ぎて少しづつ回復の兆しが見えて、少しホッとしています。でも、被災地はこれからがスタートですから大変だと思えます。

古川の私の実家は、幸い家は被害も軽微でしたが本棚や食器棚が倒れ、中はメチャクチャに壊れ、TVや冷蔵庫が1m位ずれたとの事で、壊れなかったのが不思議だと言っていました。

これだけの被害を見るにつけ、何かお役に立ちたいと思います。自治会の役員をしていますので、すぐ回覧を回して義援金を募りましたところ、皆さんから賛同をして頂き、かなりの額が集まり、厚木市を通じて被災地に送ることが出来ました。

また、ゴルフの月例の仲間から寄付の申し出が多数あり、これは他のメンバーの方の分と合わせてゴルフ場が日赤に持参しました。また、私が世話役をしているママさんクラスからも寄付があり、会計担当者からこれも日赤に持参して頂きました。

本日に今回は多数の方が応援してくれて、日本人も捨てた者じゃないと実感しました。一日も早く、もとの生活に戻れる事を心より願っています。(写真はいずれも大崎市提供)



古川地域穂波 公園の照明灯



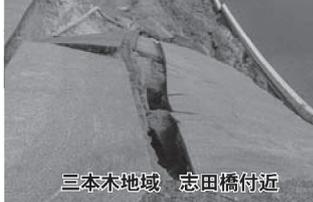
古川地域南町 倒壊した家屋



古川地域 食の蔵庫室



校舎が傾いた古川東中学校



三本木地域 志田橋付近



古川地域 食の蔵庫室



三本木総合支所 議場の天井が落下



岩出山地域 有備館が倒壊

多くの知人が応援に

昭36年卒 菅野 俊次

以下にご芳名(敬称略)を記してお礼に替えていただきます。5月10日以降にお寄せいただきました方のご芳名は、次号に掲載させていただきます。

一人ひとりの力は小さくても、皆さんの力を合わせれば大きな力になります。お寄せいただきました義援金は5月9日現在、1,190,000です。ご協力ありがとうございました。

古高生及び母校への義援金

- List of names and amounts donated to the school, organized by graduation year (昭12 to 昭36).

# 『江戸・東京探訪ツアー 2011』のご案内 —江戸城(皇居)と激動の昭和史散策—

昨年探訪ツアーでは、東京慰霊堂での関東大震災と東京大空襲の被災の写真や遺物を見学しましたが、今回の未曾有の大震災はそれを超えるものであります。

ふるさとの皆さまには、心からお見舞い申し上げます。

これまで好評だった探訪ツアーを昨年に引き続き、今年も都内探訪として計画しました。

今回は、都内の中心に位置する江戸城(皇居)の往古を訪ねながら、激動の昭和史をたどれる隣接の遊就館(軍事博物館)を探訪し懇親会で交友をはかるという、3同窓会(本部・在仙・在京)共同企画で行うことにしました。

別紙でもご案内のとおり、皆さま方のご参加を募ります。

日時 平成23年10月26日(土)  
午前10時45分皇居大手門入口  
集合(JR東京駅丸の内側北口から徒歩10分程)

コース 江戸城皇居大手門—(入城)—松の廊下跡—天守閣跡—大奥跡—北詰橋門—国立公文館—北の丸公園—武道館—田安門—靖国神社—遊就館(軍事博物館)等—中国飯店(昼食兼懇親会) 午後3時頃解散の予定  
参加費 7千円(遊就館入場料など含む)

※中国飯店 千代田区九段下四一七  
TEL 03-3288-3088  
(懇親会のみ参加の方は、「中国

飯店)へ13時10分頃集合

お問い合わせ先

在京古高同窓会事務局 佐々木恭次

TEL: Fax 0424941598

e-mail: skyoji@comhome.jp

## 会員通信

●今回の東日本大震災・わが郷土宮城県は、かつてない甚大な被害を受けました。映像で見ると、まるでこの世のものではない悲惨さを示しています。まさにわが身を切り刻まれているような思いです。現地にはせ参じたいと念しながら、逆に混乱を招くとの思いで断念し、とりあえず早速、百万円を宮城県災害対策本部におくりました。今回ほど絆の深さを感じたことはありません。がんばれ東北・がんばれ宮城・そしてがんばれ古高魂。

●今は中国東北部と言う「満州国」から、昭和21年に父の里「中新田」に引き揚げてから古高を卒業するまでの6年が私の故郷です。ただ、引き揚げ直後に母の里「本吉郡気仙沼町」の蕎麦屋「玉屋」に身を寄せ、港の魚市場で鰹の水揚げを目にし、中新田まで鰹一本を運んだ少年時代があったことを思うと、地震・津波から続く報道を見るのが怖い毎日です。今は遠くから、ふるさと「中新田」そして「気仙沼」のためにと念じ、支援をしております。

●地震、津波、核エネルギーに被災した皆々様に衷心よりお見舞い申し上げます。(S27佐藤清勝)

申し上げます。敗戦の引き揚げ者として永い収容所生活の中で悲哀、悲惨、空腹を経験しました。明日を信じて、自分との闘いです。(S34青沼行雄)

●大震災以降のテレビ放映を連日見ているが、被害の大きさは想像を絶し、とても現実のものとして受け入れることができません。郷里や母校の被災の程度が不明で心配ですが、被災された方々の無念、絶望感を思うと心が痛みます。失ったものを取り返すことはできませんが、一日も早く窮状を脱し立ち上がられんことを切に祈っております。(S36長井 清)

●昨夏「日本百名山」完登。上京50年目の故郷の惨状。日本は広く高く、人は孤・人生は出会い。(S38千坂孝夫)

心よりご冥福をお祈りいたします

泉 輝彌氏 (昭20年卒) 平成22年12月7日

益子 剛氏 (昭31年卒) 平成21年12月7日

梅津 君雄氏 (昭38年卒) 平成22年9月20日

## 編集後記

「第二の敗戦」と表現されるほど、被災地はまるで戦場のようです。戦後旧満州から引き揚げてきた私は、ふるさとに助けていただきました。あれから60数年、微力ではありますがこの度、一杯の恩返しをさせていただきます。迷いはありません。復興資金はいくらあっても足りません。復旧は若い世代が担い、高齢者はお金でしか貢献できません。あのすさまじい戦後を立ち上がったことを思い出し、復興なった光景を見るまでは、これからも生き続けなければなりません。(曾根)

## 佐藤 啓三 (S40年卒 中新田)

中小企業診断士  
ISO (品質・環境) 主任審査員  
エネルギー管理士  
東京都温室効果ガス検証主任者

携帯 090-1438-9132  
FAX 045-953-3894  
E-mail: fzn04730@nifty.com  
〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19

## 内科・小児科 長井内科

院長 医学博士

## 長井弘策

〔昭和31年卒(高8回) 古川高校同窓会副会長〕

〒989-6154  
大崎市古川三日町1-3-25  
TEL 0229 (91) 1020



## 貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事 代表取締役  
株式会社 アクアバンドジャパン 代表取締役副社長

## 佐々木 光一路 (昭和33年卒)

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル  
-0035 第一京浜国道沿い京急蒲田駅前  
電話 (3739) 2468  
FAX (3732) 7700  
HOT Line 090-3202-6393

## 情報処理のエキスパート 完成図書・デジタル化総合サポート

専任スタッフ・有資格

## 電子納品作成支援 おまかせください!

導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。

CALS/ECインストラクター	4名
電子化ファイリング	5名
ファイリングデザイナー	2名
文書情報管理士	5名

代表取締役会長 早坂清吉 (昭和29年卒)



http://www.keyo.co.jp E-mail: info@keyo.co.jp

本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-1-6  
☎ 03-3242-0191 FAX 03-3242-0167